2024年11月24日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

神様はどこにいるのか？

［エレミヤ書33章1～9、14～16節］

主の言葉が再びエレミヤに臨んだ。このとき彼は、まだ獄舎に拘留されていた。主はこう言われる。創造者、主、すべてを形づくり、確かにされる方。その御名は主。「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。攻城の土塁が築かれた後、剣を帯びた敵の侵入を防ぐために、破壊されたこの都の家屋とユダの王の宮殿について、イスラエルの神、主はこう言われる。彼らはカルデア人と戦うが、都は死体に溢れるであろう。わたしが怒りと憤りをもって彼らを打ち殺し、そのあらゆる悪行のゆえに、この都から顔を背けたからだ。しかし、見よ、わたしはこの都に、いやしと治癒と回復とをもたらし、彼らをいやしてまことの平和を豊かに示す。そして、ユダとイスラエルの繁栄を回復し、彼らを初めのときのように建て直す。わたしに対して犯したすべての罪から彼らを清め、犯した罪と反逆のすべてを赦す。わたしがこの都に与える大いなる恵みについて世界のすべての国々が聞くとき、この都はわたしに喜ばしい名声、賛美の歌、輝きをもたらすものとなる。彼らは、わたしがこの都に与える大いなる恵みと平和とを見て、恐れおののくであろう。

　見よ、わたしが、イスラエルの家とユダの家に恵みの約束を果たす日が来る、と主は言われる。その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める。その日には、ユダは救われ、エルサレムは安らかに人の住まう都となる。その名は、『主は我らの救い』と呼ばれるであろう。

[1]　 ひたすらこの世界のために祈るために

私は以前は、カトリック教会の修道院というものは、世離れしたような所であって、そこにいる修道士たちは、ひたすら自分の内側に籠り、自らの信心を高めるために独身を貫いてそこにいる人たちだと思っていました。しかし、どうもそう単純なことではないようです。なぜ修道院があり、修道士（修道女）がいるかというと、修道院と修道士は、言ってみれば、毎日、この世界のために祈り続ける、その祈りの奉仕のために献身する場であり、献身した人々だと聞いたことがあります。とても驚きました。院内で働く時間もありますが、朝の祈りから晩の祈りまで、一日に七回、この世から逃れているどころか、むしろこの世界のために祈り続けることのために、自分のほとんどの時間を献げているのです。世界中に修道院はありますね。そうすると、もちろんプロテスタントの教会もありますけれども、この世界中で「祈り」というのは、間断なく捧げられているということではないでしょうか。今も、私たちは誰かの祈りの中に覚えられている、誰かの執り成しによって支えられているのだと信じることが出来ると思うのです。そしてそれは、神様がそのように人々に働きかけ、促しておられるからですよね。

[2]　わたしを呼びなさい

　これまで旧約聖書「エレミヤ書」を読んできました。今日は33章から読んで頂きましたが、ここには、当時のイスラエルのユダ王国が、バビロンによって都エルサレムの神殿も城壁も壊され、また多くの者たちがバビロンに捕えられ連れていかれるという試練と屈辱とを経験したのですが、その只中にあって、預言者エレミヤが、神様から復興再生の預言を預かってそれを語っている所です。正に希望の言葉です。しかし、ユダの人々はそれをどう聞いたのでしょうか？すぐにはそのエレミヤの言葉を信じられなかったと思います。33:24を見ますと、以前このような言葉を、民が言っていたことが書かれています。「『主は御自分が選んだ二つの氏族を見放された』」。“何ということだ、あぁ、自分たちは神に捨てられたのだ、もう神様など信じられない。神様などいないのではないか…”と。これは不信仰な心なのですけれども、私たちの日常の中にも沸き起こって来る思いなのではないでしょうか。生活がうまく回っている時は良いのです。むしろ「守って頂いて神様、感謝します」と言えるかもしれない。しかし、何か思いがけないことが起こると私たちの心は急に暗い気持ちに覆われてしまって、いつしか「神様が分らない・見えない」と不安になったり、神様を疑い出したりすることがないでしょうか。しかし、そんな時こそ、むしろ、神様との関係や絆が確かなものになる機会なのではないかと思うのです。

　エルサレムの都とその神殿というのは、ユダの人々にとっての生きる支えのようなものでした。それが失われるということは、一面厳しい裁きでもあったのです。神様は、「抜き、壊し、滅ぼす」ことをなさいます。確かに厳しいです。しかし、それで終わらないのですね。「抜き、壊し」、そして、「建て、植えるために」（1:10）と言うのです。神様は、途中で放り出すことはなさいません。

　ですから今日の33：2～3をご覧下さい。これはとても素晴しい言葉です。「主はこう言われる。創造者、主、すべてを形づくり、確かにされる方。その御名は主。「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる」。神様はまずご自分のことを、すべてを形づくり、それを保っている存在であると言われます。これは、私たちの存在の根拠を言っていると思います。私たちの心は揺れ動く波のようなもので、いつも定まりません。自分の中には自分を支える確かさは無いのです。その私たちに対して、「わたしはすべてのものの創造者であり、あなた方はわたしに造られた者なのだ」と宣言されています。そしてその主が「わたしを呼びなさい」と声をかけて下さっているのです！そう、信仰とは神様を呼ぶことですね。神様との絆を作ること。そうすると神様は、「わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる」と、神様は神様のご計画の大きさ、深さを教えて下さることを約束して下さっています。驚くべきことです。人間は「神様などどこにいるのか」と神様のことを疑ってしまいますが、神様の方はどこまでも人間をつかまえて下さるのです！丁度あの創世記の楽園で神様に背を向け、神様の許を去ろうとしたアダムに対して「あなたはどこにいるのですか？」と呼びかけられているように。これは、罪人への招きであり、また大きな赦しでもあります。33章の6節以下をもう一度読んでみるとこうあります。―「見よ、わたしはこの都に、いやしと治癒と回復とをもたらし、彼らをいやしてまことの平和を豊かに示す。そして、ユダとイスラエルの繁栄を回復し、彼らを初めのときのように建て直す。わたしに対して犯したすべての罪から彼らを清め、犯した罪と反逆のすべてを赦す。」―神様は、ご自分が愛された人間たちを失いたくはないのですね。そして、その神様の‟親心”を知らず、私たちは彷徨っているのです。

[3] キリストがいて下さるから、失望せずに祈ろう

 そして、遂にその神様の思いがハッキリと私たちの所に届けられたのが、主イエス・キリストです。2千年前、あのクリスマスの夜に来て下さいました。その預言が、エレミヤ33：14以下です。「見よ、わたしが、イスラエルの家とユダの家に恵みの約束を果たす日が来る、と主は言われる。その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める。その日には、ユダは救われ、エルサレムは安らかに人の住まう都となる。その名は、『主は我らの救い』と呼ばれるであろう。 」　ここで思い起こすのはイザヤ書11章の言葉です。「エッサイの株から一つの目が萌えいで、その根から一つの若枝が育ち」とあります。切り倒された木は、それでお終いかと思ったらそうじゃない。むしろそこを通して、切り株から若枝が生え出で、やがてその名は「主は我らの救い」と呼ばれるものとなる、という預言です。「主は我らの救い」。救い主イエス・キリストのことです。このお方は、私たちの傷をその身に引き受け、私たちの罪をすべて赦し、私たちが主と共に新しい人生を生きて行くことが出来るために、人となって来て下さいました。神様はここにおられます！私たちはいつでもこの方を呼べるのです！また、呼ばなきゃいけないとも思います。クリスチャンとは何者でしょうか？自分の姿を見ても、決して失望しない人だと思います。この世界は暗いことが多いですけれども、神様がこの世界を諦めていません。聖書はそのことの証言です。昔は預言者、そして今はイエス・キリストを送って下さったのですから、私たち、本当にこの世界の救いのことを覚えながら（本日からちょうど世界祈祷週間ですね）、神様の名を呼び、祈って行くことが出来たら、と思います。

私は、ウィリアム・ブレオーという人の「ゆるしのために」という詩を読んでいて、とても励まされました。それを最後にお読みしたいと思います。

主よ、

わたしが　あなたに罪を犯したその時でも

あなたはわたしの神。

この事実を　変える力をもつものは何もありません。
あなたはいっくしみとあわれみの神
わたしがそれを皆欠いていても
あなたはわたしを理解してくださる。

そして何より
あなたはゆるしを与えてくださる神

「父よ、わたしをゆるしてください。わたしはあなたに対して罪を犯しました。」
弱さに負け　欲望にかられ
仮面をはいだほんとうの姿は

恐れと不安にすぎないような自尊心に強いられて

わたしは罪を犯しました !

自分のこんな姿をみても

自己嫌悪に心を固くしてしまったり　皮肉に心を毒されて
あなたに仕える心までなくしてしまったりしませんように。

あわれみと　いつくしみの神
あなたに向かって目をあげることを

思い出すことができますように。

お祈り致します。

神様、私たちは「神様はどこにいるのですか？」とすぐ呟いてしまう弱い者です。しかし、そんな私たちに、いえ、そんな私たちだからこそ、「私を呼びなさい！」と招いていて下さっていることを教えられました。ありがとうございます。あなたはこの世界を造り、この世界を愛し、保持しておられるお方です。どうかあなたが確かに私たちと共に生きておられることを日々教えて下さい。そしてあなたに聴き、また隣人のために、この世界のために祈り続けていくことが出来ますように。いよいよ来週からアドベントを迎えます。新しい思いで、主をお迎えする備えをさせて下さい。主イエスの御名によって祈ります。アーメン。